

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 放課後等デイサービス ぞうさん板付教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		指定基準以上のスペースを確保している	利用人数によって活動の内容に工夫を行う等している。
	2	職員の配置数は適切である	7		職員を加配し、基準を遵守した配置を行っている。	今後も基準を遵守した配置を行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1	玄関入口に段差あり。駐車場から玄関アプローチに階段が3段あるが手摺を設置している。個々の子どもに合わせた安全配慮を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		定期的に業務分担を見直し、全職員がそれぞれの業務に対して振り返り、意見を出し合い業務改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		保護者様からのご意見を真摯に受け止め、業務改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		今後、検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		幅広く研修の機会を設けている。受講できなかった職員も研修記録を見ることができるようにし、全職員の資質の向上を目指している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		半年に1回以上のアセスメントを行い、子どもと保護者のニーズに沿った個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		標準化されたアセスメントシートを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員の意見や得意分野を活かしながら職員が広く関わりながら立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		同一の目的をもった活動であっても取り組み方を変える等固定化しない工夫を行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		平日には個々の子どもに目標を設定し支援している。学校休業日には外出支援等の活動を取り入れ社会性を身に付ける等の課題を設定し支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日、朝礼を行い職員間で支援やその日の活動内容を共有し、役割分担の確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		毎日、終礼を行い、その日の支援の振り返りを行っている。当日休みの職員も共有できるように記録を作成している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		利用児童毎に個別支援計画書に基づいて記録をしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		半年に1回以上はモニタリングを行い、個別支援計画書の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		基本活動を組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	地域交流に関しては今後、実施の方向で検討していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		児童発達支援管理責任者を主とし、子どもの状況に応じて他の職員も参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	必要に応じて適切に行っている。	急な下校時間変更等により学校へのお迎え時間が遅れる場合には速やかに学校に連絡を入れることを徹底していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7	対象児の受入れ実績なし。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7		必要に応じて情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		7	対象児童なし。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	病院等の専門機関より助言を受け、適切な支援を行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		他教室との交流を行っている。また、外出支援の際に障がいのない子どもと活動する機会がある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		7		機会があれば積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		連絡帳や送迎時、電話等にて互いに情報共有を行い共通理解をもっている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		年に2回、保護者交流会を設け、その際に保護者の不安や悩みに対して具体例を挙げながらアドバイスや助言を行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		保護者からの悩み等の相談には随時対応し、必要な助言や支援を行っている。また、必要に応じて関係機関と連携し支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		年に2回、保護者交流会を実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		苦情相談窓口、苦情解決責任者を設置している。苦情があった際には迅速かつ適切に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		SNS(Instagram)にて定期的に活動等の様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	7		個人情報保護の規定に則り、取り扱いには十分注意している。書類は鍵付きの書庫に保存している。SNSにおいては、個人が特定されないよう配慮を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		必要に応じて個別に配慮した対応を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		今後検討していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		各種マニュアルを策定し、職員に周知している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		年間スケジュールを組み、訓練を行っている。訓練後には保護者に訓練報告として様子をお知らせしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		マニュアルの周知、虐待防止の研修に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		契約時に説明を行い、同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		7	医師の指示書を提示されている児童は現在居ない。また、契約時にアレルギーの有無を確認している。	契約時にアレルギーの有無を確認し、医師の指示書を提示される方については指示書に基づいて対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハット報告書を作成し、共有している。また、検討の機会を設け今後の支援や対応に活かしている。	